

つまずきポイント指導事例集の活用方法

個々の教員の授業改善に活用

「ひょうごつまずきポイント指導事例集」は、体系的な取組を通してつまずきを解消できるよう、各領域に見られるつまずきごとに事例を掲載しています。

「自分の今の授業を何とかしたい」というだけでなく、「児童がこれまでにどんなことにつまずいていたから今困っているのか」「今ここでつまずくと、学年が上がるにつれてどんなつまずきにつながるのか」ということも意識して活用することで、子ども達の確かな学力向上に結び付けることができます。

1 自分の学年に関する事例を確認します

この指導事例集では、学年からも、領域に見られるつまずきからも、事例を探ることができます。

学年	読むこと	書くこと	話すこと・聞くこと	書くこと	話すこと・聞くこと
第1学年	読むこと	読むこと	話すこと・聞くこと	書くこと	話すこと・聞くこと
	書くこと	書くこと	話すこと・聞くこと	話すこと・聞くこと	書くこと
第2学年	読むこと	読むこと	話すこと・聞くこと	書くこと	話すこと・聞くこと
	書くこと	書くこと	話すこと・聞くこと	話すこと・聞くこと	書くこと
第3学年	読むこと	読むこと	話すこと・聞くこと	書くこと	話すこと・聞くこと
	書くこと	書くこと	話すこと・聞くこと	話すこと・聞くこと	書くこと

学年ごとの目次から探す

話すこと・聞くこと領域

相手の意図をつかみながら、目的や意図を意識して話すこと

に関するつまずき解消に向けた体系的な取組

豊岡市立田鶴野小学校の実践

第6学年 話し手の意図をとらえながら、自分の考えを明確にして物語ること

第5学年 相手の意図をとらえながら聞き、目的に応じて、自分の考えを話すこと

第41 こと

第31 領域ごとに探す

第21 視点

第1学年 大事なことを意識して聞き、そこから疑問を見つけること

2 つまずきの実態を確認します

第2学年 読むこと②

登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態

叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。

「信じてほしい」「早く来てほしい」「本当のことを言いたい」といった、かえるくんの強くなっていく気持ちを読み取るができない。

実践の概要

目標 人物の気持ちを場面ごとに読み取り、全体を通して、気持ちがどのように変化してきたかを読むことができる。

内容

- 登場人物の会話や行動、場面を整理する。
- 叙述をもとにして、場面ごとに登場人物の気持ちを読み取る。
- 読み取ったことを音読劇にする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学年	つまずきの実態
第6学年	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主眼にせまる考えをもつことができない。
第5学年	一方的な視点からだけ出せず、主眼にせまる感情をもつことができない。
第4学年	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の書かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	場面の様子や登場人物の活動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

つまずきの実態

叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。

「こんな児童の姿が見られますか？」

「信じてほしい」「早く来てほしい」「本当のことを言いたい」といった、かえるくんの強くなっていく気持ちを読み取るができない。

「ひょうごとして、だれかが、きみに、お手紙をくれるかもしれないだろう。」

「さようば、だれかが、きみに、お手紙をくれるかもしれない。」

「だて、今、はやく、お手紙をまわしているんだ。」

具体的なつまずきの姿を参考にし、自分の学級の児童が、どのようなことに困っているのかを具体的な姿としてイメージしておくことで、必要な手立てを行うことができます。

ここがポイント!

3 目標や内容、学習内容の系統と各学年のつまずきの実態を確認します

読むこと②
第2学年 登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態
「読むこと②」の学習内容に達成されている学習者の実態を確認することができ、つまずきの実態を確認することができます。

実践の概要
目標 人物の気持ちを場面ごとに読み取り、全体を通して、気持ちがどのように変化してきたかを説明することができる。
内容 登場人物の会話や行動、場面を整理する。
取組 場面ごとに登場人物の気持ちを読み取る。
読み取ったことを発表する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学年	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	読者の気持ちや登場人物の気持ちを読み取る	登場人物の心情や場面についての描写を正確に読み取ることができず、場面ごとの気持ちを説明することができない。
第5学年	登場人物の心情や場面を読み取る	登場人物の心情や場面について、文章の一部から場面を読み取ることができない。
第4学年	登場人物の心情や場面を読み取る	登場人物の心情や場面について、文章の一部から場面を読み取ることができない。
第3学年	登場人物の心情や場面を読み取る	登場人物の心情や場面について、文章の一部から場面を読み取ることができない。
第2学年	登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと	登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むことができない。
第1学年	登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと	登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むことができない。

単元末の目指す姿

- 動作化することで登場人物の心情をもつことができ、その人物に寄り添って気持ちを読み取ることができる。
- ワークシートを用いて、場面を明らかにしながら登場人物の気持ちの変化を読み取ることができる。

目標・内容

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

自分の学年の学習内容やつまずきが、前後の学年にどのようにつながっているのかを意識することが大切です。

今このつまずきが、どの学年からつながっているのかを考えると、前の学年の学習内容のワークシートを個別に用意するなど、必要な手立てを行うことができます。

ここがポイント!



4 つまずき解消に向けた手立てを確認します

つまずき解消に向けた指導の手立て

場面ごとに人物の心情がわかる描写を読み取らせる。

ここがポイント!
人物の心情や場面を正確に読み取る。場面ごとの気持ちを説明することができる。

授業の様子

ここがポイント!
登場人物の心情や場面を読み取る。場面ごとの気持ちを説明することができる。

つまずき解消に向けた指導の手立て

場面ごとに読み取りを整理して、ワークシートにまとめる。

ここがポイント!
登場人物の心情や場面を読み取る。場面ごとの気持ちを説明することができる。

ワークシート

ここがポイント!
登場人物の心情や場面を読み取る。場面ごとの気持ちを説明することができる。

指導事例集では、児童が特につまずきやすい場面に焦点を当て、つまずき解消に向けた手立て、指導のポイント、授業の様子などを紹介しています。

指導事例集に掲載している手立てを取り入れる際には、そのねらいが何か、その活動を通して、児童のどのような姿を目指すのかを考えると、必要な手立てを行うことができます。

ここがポイント!



主体的・対話的で深い学びを通したつまずきの解消に向けて

新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びを通した授業改善が求められています。本指導事例集では、主体的・対話的で深い学びにつながる実践に、右に示すマークを付けています。詳細は99ページを参照して下さい。

★主体的な学びにつながる実践

★対話的な学びにつながる実践

★深い学びにつながる実践

学校全体の授業改善に活用

全国学力・学習状況調査や「ひょうごつまずき状況調査」等を活用し、学校全体のつまずきを把握することで、つまずき解消に向けた系統的な取組を行うことができ、学校全体の学力向上を図ることができます。

1 学校全体のつまずきを明らかにします

①全国学力・学習状況調査や「ひょうごつまずき状況調査」等を活用して、自校の児童につまずきが見られる内容を明らかにします。

「ひょうごつまずき状況調査」とは

過去の全国学力・学習状況調査で特に課題のあった問題を中心に作成した調査です。

小学校5・6年、中学校全学年を対象としており、国語は、小・中学校とも同一の問題から、算数・数学は、複数の学年に共通の問題を取り入れて構成しています。

兵庫県教育委員会ホームページからは、調査問題や質問紙調査、解答用紙、解答類型などがダウンロードできます。

②課題の見られる内容につながる、領域ごとのつまずきやつまずきポイントを確認します。

全国学力・学習状況調査や「ひょうごつまずき状況調査」を活用するには、正答率だけでなく、解答類型等も分析し、具体的なつまずきを明らかにすることが大切です。



2 学年ごとのつまずきを明らかにします

「つまずきにつながる学習内容の系統 (p.4)」を参考に、自校の学年ごとのつまずきを明らかにします。

小学校 国語	つまずきにつながる学習内容の系統
<p>国語におけるつまずき (読解・書写・表現、読書、ことば)</p> <p>① 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき①)</p> <p>② 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき②)</p> <p>③ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき③)</p> <p>④ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき④)</p> <p>⑤ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑤)</p> <p>⑥ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑥)</p> <p>⑦ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑦)</p> <p>⑧ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑧)</p> <p>⑨ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑨)</p> <p>⑩ 国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑩)</p>	<p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき①)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき②)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき③)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき④)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑤)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑥)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑦)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑧)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑨)</p> <p>国語の基礎やつみあがり、国語の基礎を固めて学習すること (つまずき⑩)</p>

単元末のテストや小テスト、普段の授業の様子なども参考にしながら、各学年の具体的なつまずきを明らかにします。

ここがポイント!

3 つまずき解消に向けた系統的な指導計画を立てます

学年	身に付けさせたい力の系統	各領域におけるつまずき
高学年 (5-6年)	考えたことなどから書くことを決める、目的や意図に応じて全体を見通して事柄を整理することができる。	自分の意見を様々な視点から分析したり、整理・分類・理由を関係付けたりできない。
中学年 (3-4年)	関心のあることなどから書くことを決める、相手や目的に応じて、必要な事柄を調べることができる。	段落相互のつながりや考えながら、自分が伝えたいことの中心を考えることができない。
低学年 (1-2年)	経験したことなどから書くことを決める、観察・メモしたことから、書きたいことを決める。	

各領域の冒頭には、領域における、学年を通した取組の工夫や、身に付けさせたい力の系統が掲載されています。

① 新たな考えや表現を友達から得たり、自分の考えや文章を客観的に見直ししたりできるようにする。

② 考えや物事を関係付けられる、ワークシートを活用する。

→結果だけでなく、考えた過程を振り返りながら考えをつくるようになる。

→順序立てる、選択する、関係付けるなどの思考を通して考えをつくるようになる。

各学年の事例には、具体的なつまずきの姿や学習内容の系統、つまずき解消に向けた指導のポイントが掲載されています。

読むこと②

登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

つまずきの実態

読解に悩まれている登場人物の気持ちを想像することができない。

読者の心情

登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

学習内容の系統ともつながる

読解の過程

登場人物の気持ちや出来事について、想像を広げながら読むこと

単元末の振り返り

単元末の振り返り

教材や学習活動の工夫など、つまずき解消に向けた手立てについて、学校全体で共通理解を図り、系統的な指導を行うことが大切です。

ここがポイント!